

第2回 駒沢川流域協議会 要旨

日時：平成17年3月3日（木）午後7時から午後8時30分

場所：辰野町 小野農民研修センター

出席者：会員32名（H17.3.3現在会員数48名）

議事内容

- 1 前回議事録報告 別添：資料1
- 2 流量観測結果報告 別添：資料2
- 3 平成16年被災状況 別添：資料3
- 4 意見交換

主な意見・質問及び回答

【1．前回議事録報告】

意見・質問は特になし。

【2．流量観測結果報告】

- ・23号台風の時に、駒沢川合流点上ではダム計画時の基本高水に対して、何パーセントの最大流量になっているのか？

（伊那建設事務所：駒沢川合流点上では、52t/秒に対して7.7t/秒ですので15%になる。）

- ・最高水位の意味は？

（伊那建設事務所：駒沢川合流点上におけるダム計画時の調整後の流量36t/秒の際の水位が2.0mで、それに対して68cmの出水があったということ。）

- ・合流地点の断面は分かるが、駒沢川上流部の断面と基本高水流量、高橋川の断面と基本高水流量を教えて欲しい。

（伊那建設事務所：断面については駒沢川上流部の断面は手元に持ち合わせていないので後日回答する。高橋川は深さ1.0mのU字溝。基本高水については、駒沢川上流部の正確な数字は持ち合わせていない。高橋川は基本高水流量は設定されていない。）

- ・台風22号、23号の時の駒沢川の合流点の水位計が破損したということは、機械が壊れた時の水位で、予測ではこれ以上の数値が出たという解釈でよいのか。

（伊那建設事務所：台風22号の時に土砂で詰まり観測不能になり、その後修復したが、23号の時にセンサーまで破損した。そのときには観測員が付いて観測していたのでその観測値で、最高水位としている。）

- ・16年に小野では、たとえば1時間の雨量が9mm 或いは21mmだが、京都や和歌山などでは1時間に50mm、60mmが平気で降る。それから連続雨量で400mm、500mm降るところもあることを考えると、やはり安全度は現状ではかなり低い。そのような認識はしている。

- ・流量観測を、どうやって解析をするのか。
(座長：説明が長くなるので、事務局から個別に説明して下さい。)

【 3 . 平成 1 6 年被災状況】

- ・河川の復旧工法の環境保全型ブロックの工事というのはどういった工事なのか。
(伊那建設事務所：今まで私どもの使ったのは、ブロックの表面がざらざらした程度だが、草も生えたり苔がむすのが早くなるというようなブロックを使う工事。)
- ・例えば南箕輪村の大泉川、それから駒ヶ根市の田沢川などの(自然石を使った)ような復旧できないか。
(伊那建設事務所：災害復旧については、災害復旧は現状回復が基本になっているので、駒沢川の今回の災害箇所ではできない。)
- ・駒沢川はくにくにくに曲がっていて、ちょっと水が出れば、山側のほうが崩れて水害を起こす、そういうような場所だ。(災害復旧箇所の)水源(水道施設)が壊れないような改修をお願いしたい。
(伊那建設事務所：水源のところについて災害復旧は行うが、改修の際は図面等が出来た段階で、皆様と相談していきたいと考えている。)

【 4 . 意見交換】

- ・利水について検討するのはいつ頃になるのか、見通しだけでも聞かせてほしい。
(辰野町：小野簡易水道については小野簡易水道運営委員会という組織があり、この中では将来のことについて考えているが、今のところすぐ何かをするということについては、結論は出ていない。
伊那保健所：利水の水道につきましては事業主体があくまでも町にあります。従って、意思決定は事業者の町にして頂き、県は支援していきます。)
- ・駒沢川部会だけダム案 1 本で答申したのだから、いわゆる特別措置法でこの駒沢流域を救済できるような、新水源確保のための法案を作っていただきたい。持ち帰って知事に相談して頂きたい。
(伊那保健所：伝えます。)
- ・新聞に災害復旧箇所として伊那建設事務所管内の 1 3 7 箇所、金額で 2 1 億円と数字が出ていた。その中で辰野町が 6 0 箇所が一番多いということが新聞に載っていたが、この公共土木施設の災害だけか、それともその他も含めてなのか。
(伊那建設事務所：1 3 7 箇所、辰野の 6 0 箇所というのは、国の補助を受ける国土交通省関係の公共土木災害復旧箇所数。)
- ・平成 1 5 年の小野地区の回覧で、駒沢川流域全体で県の林務課が調査することになっていたが、その内容を教えて欲しい。
(上伊那地方事務所林務課：1 5 年度において、駒沢川上流側で森林の調査をしています。調査の結果に基づいて、1 5 年度から森林整備事業を進めております。1 5 年度に 1 2 . 7 h a、1 6 年度は 9 . 8 h a を実施、1 7 年度は大体 1 0 h a くらい森林整備していきたい。全体の計画としては、8 0 h a の森林整備を予定していて、残り 4 7 . 5 h a については 1 8 年度以降に整備していく。駒沢川で行っているのは間伐主体で、広葉樹

はちょっと強い間伐をすると下の方には当然出てくる。針葉樹をアットランダムに間伐し、その下に広葉樹を生やす。そういうような形で災害に強い山にするというように考えている。)

- ・小野川について、昨年の台風の状況を見ていてもあまり猶予できないんじゃないかという印象をもっている。早急に小野川全体の、本当に安心して住めるという状態に河川改修を考えて頂きたい。

(伊那建設事務所：小野川流域につきましては駒沢川が始まらないと、全体的には進まないかなと考えている。また、管内いくつもの河川があるので、危険性の高いところから整備するという事で考えている。)

- ・16年度の連続雨量については分かるんですかね、16年度以前の中で連続雨量がどれくらいだったか、データがあったら教えてほしい。

(伊那建設事務所：観測データはありますけども、それがいつからデータを取っているか、今は分からないので調べる。)

- ・昨年の流量の最高水位の件ですけど、駒沢川合流点上で60cmということだが、他の箇所ではもっと水位が高かった。とてもそんな数字ではなかつと感じている。誰が見てもわかるように標柱のようなものを設置できないか。

(伊那建設事務所：数値については観測員をつけて1時間ごとに確認しており、これについては間違いない。上流については断面的に狭いとか、土砂が堆積して河床があがっているということで部分的には水位の高い箇所がある。水位の表示につきましては検討したい。)

- ・駒沢川合流点上の観測地点のすぐそばに住んでいるが、昨年10月の豪雨の時は、確かにこの地点での観測した水深は68cmということで、70cmか80cmくらいだったと思う。それで、改修以前の昭和58年くらいの断面の状況を見ますと、まず間違いなくあふれていたんじゃないかと思った。

- ・全体的な河川改修の目処とかそういうものを協議会で話し合うんですけども、県としての方針は現時点でどのようなものか。

(伊那建設事務所：駒沢川全体の改修ということでは、協議会の方針で行く。県としても現況の駒沢川の危険度というのは、認識しているんで、予算要望とか一時的な対策というのも考えて行きたい。ついては、地元の方と一緒に現地を見ながら箇所や優先順位を相談したい。ただ日常の維持管理については、県は数多くの河川を管理しているので、中々出来ないこともあるので、地元の皆さんに出来る範囲でご協力をお願いしたいと思う。

- ・昨年の23号・22号の豪雨のときに、このデータから見ても基本高水には程遠い小さな流量にも係わらず、実際にはああいう災害が出ている。地元の間人としてはもしダムが出来ていれば、あるいは防げていたかなというような感がないでもない。

(伊那建設事務所：ダムが出来ていても水が出ると言うことは変わらないと思うが、災害が起こったかどうかというのは判断できない。)

- ・ダムが中止になって、ああいう災害が起きると何か非常に空しい感じがする。そのへんのところも県の方で考えて頂きたい。